

平和で豊かな沖縄県を目指す情報誌

無料

ご自由にお持ち
帰り下さい

2016.1

No.1 (創刊号)

沖縄協会だより

特集

沖縄研究奨励賞受賞者紹介

今の沖縄を自然科学の目線から探求!



沖縄協会は、沖縄が本土に復帰するまでの間、各種の援護活動を行った特殊法人南方同胞援護会(昭和31年～47年5月)の後を受けて、昭和47年9月20日に設立された内閣府所管の公益法人です。新たに設立した財団法人沖縄協会は、南方同胞援護会の実績と経験を活用して、沖縄の振興施策に積極的に協力し、平和で豊かな沖縄県の建設に寄与してまいりました。平成23年(2011)4月1日、沖縄協会は内閣総理大臣より公益財団法人として認定を受けて「公益財団法人沖縄協会」として新たな一歩を踏み出しました。これからも、沖縄県の健全な発展と幸福な社会形成に役立つ事業を行いながら、沖縄平和祈念堂の管理運営をすることで、平和で豊かな沖縄県の建設に貢献していきます。

公益財団法人 沖縄協会



公益財団法人沖縄協会
会長 清成 忠男

「沖縄協会だより」の発行について

この度、当協会では、情報誌「沖縄協会だより」を発行することに致しました。設立以来40年を超える歴史のなかで、当協会の情報誌は、協会の機能に対応して姿を変えてきました。当初は、民間機関として国や県を補完する活動を重視し、新聞形式の情報誌と沖縄問題研究の小冊子を刊行しました。その後1990年代には東京サイドで沖縄研究を継続する「季刊沖縄」を刊行してきました。

しかし、最近では、沖縄平和祈念堂を拠点にして文化活動に重点を置き、新しい沖縄学習・平和学習に関する事業を展開しております。そうした活動を随時総括し、お伝えするために「沖縄協会だより」を発行することに致しました。なお、これに伴い「季刊沖縄」は廃止致します。

Congratulations

沖縄研究奨励賞 受賞者・団体紹介と受賞理由



【自然科学部門】

金城 貴夫(きんじょう・たかお)

- 所属: 琉球大学医学部保健学科・教授
- 年齢: 49歳
- 研究題目: 沖縄県の悪性腫瘍とウイルスとの関連 —その特異性と癌発生のメカニズムについて—



【自然科学部門】

ジェイムズ・ディビス・ライマー

- 所属: 琉球大学理学部海洋自然科学科生物系・准教授
- 年齢: 42歳
- 研究題目: 沖縄のサンゴ礁における海洋生物多様性研究



【自然科学部門】

パインアップル育種研究グループ(メンバー8人)

代表 竹内 誠人

- 所属: 沖縄県農業研究センター名護支所・主任研究員
- 年齢: 42歳
- 研究題目: 生食用高品質パインアップル品種の育成およびDNAマーカーを利用した育種技術の開発

沖縄県の悪性腫瘍とウイルスとの関連 —その特異性と癌発生のメカニズムについて—

受賞理由 金城貴夫氏は、国内の他の地域より沖縄において多くみられる悪性腫瘍(肺扁平上皮癌、口腔扁平上皮癌およびカポジ肉腫等)について検討し、Human papillomavirus(HPV)や Epstein-Barr virus (EBV) ならびに Human herpesvirus8(HHV8) の感

染と腫瘍発生について詳細に研究を行っている。特にHPVやEBV、HHV8などの遺伝子に沖縄の株では興味ある変異がみられることも報告した。一部の遺伝子については培養細胞での発現実験を行い、扁平上皮生などに関する重要な発見をしている。さらに、カポジ肉腫については自然消退することから知られているが、遺伝子変異との関連がみられ、この点は今後研究を進める必要がある。将来が楽しみである。沖縄に多い悪性腫瘍は国の統計報告で

沖縄のサンゴ礁における海洋生物多様性研究

受賞理由 ジェイムズ・ライマー博士は、カナダ出身の海洋生物学者で、地元ブリティッシュコロンビア大学を卒業後日本に留学、鹿児島大学大学院で修士(2001年)及び博士(2004年)の学位を取得された。その後横須賀の海洋研究開発機構と高知県の黒潮生物研究所での研究員を経て、2007年に琉球大学理学部海洋自然科学科生物系助教に採用され、2013年

は他に成人T細胞白血病等もあるが金城氏は米国NIH留学中に成人T細胞白血病ウイルス(HTLV-1)遺伝子についてのおこなった報告を行っている。しかし、沖縄で行った研究ではないので今回の受賞対象には含まれていない。金城貴夫氏の研究は沖縄において沖縄の悪性腫瘍についてのすぐれた研究であり、業績も原著論文はすべてレベルの高い国際誌に掲載されている。今後さらに研究の発展が期待され金城貴夫氏の研究は沖縄研究奨励賞にふさわしいと考えられる。(岩政 輝男 選考委員)

に准教授に昇任して現在に至っている。欧米出身の自然科学者としては異色の経歴を持つ若手研究者である。

ライマー氏は、専門とするスナギンチャク目の分類の他、褐虫藻、八方サンゴ類、ヨコエビ類など、多岐にわたる生物種の分類でめざましい成果を上げている。琉大に赴任してからの8年間で4つの新科、9つの新属にまたがる47の新種を発見している、このうち2科、5属、37種は琉球列島からの発見である。ライマー氏は、海洋無脊椎動物の分類に分子生物学的手法を駆使した研究で知られ、特にスナギンチャク目に関する研究では第一人者として国際的に高く評価されている。

種の同定は、多様な生物が共存している複雑なサンゴ礁生態系を解明し、生物資源とその環境の保全を考える上での第一歩である。ライマー氏が短期間に驚異的とも言えるこれだけ多数の新種を発見していることは、氏の卓越した研究手腕によるものであると同時に、沖縄諸島を取り巻くサンゴ礁海域が学問的に未開のフロンティアであり、貴重な生物資源を擁する宝庫であることを示している。ライマー氏が最近最も力を入れている研究の一つは、金武湾の海中道路海域で沿岸開発が海洋生物多様性と生態系にどのような影響を与えるかを明らかにすることである。

ライマー氏は、これまで120報の

論文を国際誌に発表している他、150以上の学会発表を行うなど、沖縄をベースに顕著な研究活動を国際的に展開している生物学者である。氏の研究活動は国内外の新聞やテレビ等メディアでも多く取り上げられ、沖縄の自然の豊かさを一般社会に紹介することにも貢献している。日本語も堪能で、日英両語で学生の教育や研究指導も熱心に行っており、教育研究ともに今後一層の活躍と貢献が期待される。

(比嘉 辰雄 選考委員)

生食用高品質 パインアップル品種の 育成およびDNAマーカーを 利用した育種技術の開発

受賞理由

かつて、沖縄のパインアップルはサトウキビと並んで2大基幹作物であったが主として、缶詰加工原料生産であったため、輸入自由化とともに衰退し、生食用への転換を試みたが従来品種での対応は限られたものとなり、品種改良による局面の打開が望まれていた。

本研究は従来の選抜的な育種を乗り越え、独自に発見し応用を可能にしたDNAマーカーの活用による効率的な育種手法を確立し、生食用として望ましい品種を次々と育成した。その結果、パインアップルが生果分野を中心に再

び、基幹作物になり得るための最も重要な成果をあげるに至っている。

世界のパインアップルの育種は加工原料用に主眼がおかれ、生食用として本格的に取り組んだ研究は殆どなく、沖縄の独壇場である。この革新的で多様な育種法はこれまで困難視されていた耐病性や耐環境圧に優れ、極高糖性の品種沖農P17や早生で大果の高品質、良食味品種ゴールドパレル、早生で耐病性の良食味ジュリオスター等々の品種を育成し、これまでのパインアップル育種の手法をはるかに超える極めて独創的な成果をあげている。

パインアップルは酵素活性が高くビ



美と平和の殿堂

沖縄平和祈念堂

沖縄平和祈念堂は、沖縄県民はじめ全国民の平和願望、戦没者追悼の象徴として建設されました。堂内には、沖縄県下の各市町村及び学童による募金活動の支援を受けて、沖縄が生んだ傑出した芸術家山田真山氏が18年余の歳月をかけて原型を制作した沖縄平和祈念像が安置されており、このほかにも西村計雄画伯が平和への思いを込めて制作された絵画「戦争と平和」(20点連作、各300号)が堂内の壁面を飾り、敷地内には彫刻家佐藤忠良氏制作によるブロンズ製の「少年」の像をはじめ平和祈念堂の理念に賛同された日本画壇の第一線で活躍する画家から贈られた大作を展示する「美術館」などを設置しています。また、平和祈念像のメッセージを伝える使者(蝶)・オオゴマダラを飼育する「清ら蝶園」を建設しました。沖縄平和祈念堂は「美と平和の殿堂」として、沖縄県が建設した「平和の礎」と一体となって摩文仁の地から世界に向けて平和の尊さを訴えています。

タミンC等の機能性も高く、パイナップルに続く機能性果樹でもある。このパイナップルの本質的な力は高品質の生果や無糖の加工品によってはじめて実現し得るものである。また育成された品種の組み合わせによって、土地の利用率の拡大や自然災害に対し極めて低コストで対応でき、労働のローテーションも容易にすることも可能である。本研究の成果はすでに現場に移され、その可能性は実証されており、かつてのパインアップル産業をはるかに上回る沖縄独自の発展は時間の問題といえる。

(比嘉 昭夫 選考委員)

沖繩平和祈念堂開催「慰霊・平和祈念行事」

第8回平和の礎刻銘者追悼清明祭

平成27年4月11日「第8回平和の礎刻銘者追悼清明祭」を開催した。平和の礎刻銘者名簿が納められた沖繩平和祈念像には清明料理や果物などが供えられ、約400人の参加者が琉球てまりや折り鶴を手向けて恒久平和を願った。そして、人間国宝の照喜名朝一さんによる琉球古典音楽の「仲風節」、沖繩男声合唱団が「だんじゅ嘉利吉他6曲を奉納した。また、戦没者に平和を築く思いを伝える「弥勒世のお願い」を沖繩口(沖繩方言)で朗読した。



第35回「いじも琉球芸能奉納」

この日の5月5日、第35回「いじもまつり」子ども琉球芸能奉納を開催した。子ども達の健やかで心豊かな

成長を願い、芸能をとおして平和の尊さを考え学ぶことが目的。平和祈念像の前で2歳から大学生が琉球舞踊や組踊を奉納した。出演者と観衆約500人が、戦没者に思いを寄せ、世界平和を願った。



平成27年度 沖繩全戦没者追悼式前夜祭

平成27年6月22日、平成27年度沖繩全戦没者追悼式前夜祭を開催した。この行事は、沖繩慰霊の日と沖繩県が主催する沖繩全戦没者追悼式をより意義あらしめるため、沖繩県、(一財)沖繩県遺族連合会、(公財)沖繩県平和祈念財団の共催を得て毎年開催している。当日は、県民をはじめ沖繩県遺族連合会や日本遺族会の関係者ら約450人が参列し、戦没者の冥

福と世界平和を願った。第一部式典では「鎮魂の火」の献火、「平和の鐘」の献鐘にあわせて参列者全員が黙祷を捧げた。主催者を代表し、清成忠男当協会会長が「戦後70年の節目に、戦没者追悼の象徴である平和祈念堂から世界

に向けて戦争の反省と恒久平和の実現を訴えつつけることを誓う」鎮魂のことばを述べた。第2部は、琉球古典音楽各会派による合同献奏や琉球舞踊が奉納された。

第38回

「摩文仁・火と鐘のまつり」

12月31日から2016年1月1日にかけて第38回「摩文仁・火と鐘のまつり」を開催した。当日は約800人が参加し、去りゆく年をふりかえり、新しい年の世界平和を誓った。まつりのクライマックスでは、参加者が持つたいまつをあかりで幾つもの円陣を描き、清らかな祈りの歌「沖繩平和祈念像讃歌」が献唱された。そして、新年の訪れを告げる平和の鐘を合図に円陣中央の聖火台に「平和の火」を灯した。勢いよく祈りの炎が燃え上がるなか、打ち鳴らす鐘の音が響きわたる、聖なる炎と鐘が織り成す祭典を終えた。

協会主催関連行事

公益財団法人沖繩協会講演会

「サツマイモを生かした地方創生」

平成27年10月21日、当協会講演会「サツマイモを生かした地方創生」を沖繩県石垣市の沖繩県八重山合同庁舎で開催した。第一部は「沖繩の芋・豚文化」を沖繩県の長寿を考える」と題した講話が

高弘子当協会副会長によって行われ、芋の栄養価と県民の長寿について話した。第二部は「沖繩紫八重山ブランド化へ現場の取組み」をテーマに、県農業研究センター主任研究員の大見のり子さん、沖繩紫生産者の会代表の大屋一弘さん、石垣島甘しょ生産組合事務局の運道直直さん、沖繩振興開発金融公庫八重山支店支店長の古堅宗俊さんによるパネル討論が行われた。(詳細は協会だより第2号に掲載)

事業構想特別シンポジウム in 沖繩

「沖繩産業における革新的事業構想」

平成27年11月13日、当協会と事業構想大学院大学が主催する「事業構想特別シンポジウム in 沖繩」沖繩産業における革新的事業構想」を那覇市で開催した。この催しは、我が国において数少ない人口増加県である沖繩は、沖

繩県外との収支を示す「県際収支」も急速に改善し自立への道を歩んでおり、今後、沖繩では新しい事業が次々と登場することが期待され、これから挑戦しようとする事業構想家にむけて、事業構想のあり方を考え、事業構想のきつかけづくりの場としてこのシンポジウムを開催した。第一部は基調報告が行われ、清成忠男当協会会長・事業構想大学院大学学長をはじめ諸久山當則沖繩振興開発金融公庫理事長、東良和沖繩ツーリスティング代表取締役会長が登壇した。第二部は「沖繩産業における革新的事業構想」をテーマに各界の代表

が展開された。

戦後70年・生誕130年記念博物館特別企画

「巨匠山田真山がみつめた平和のいろとかたち」

平成27年11月17日、戦後70年・生誕130年記念博物館特別企画「巨匠山田真山がみつめた平和のいろとかたち」(県立博物館・美術館、沖繩協会主催)が、那覇市おもろまちの博物館常設展示室(歴史部門展示室)で開催された(28年2月21日まで)。沖繩戦後70年の節目の年と

沖繩平和祈念像の原型を制作した彫刻家・日本画家の山田真山画伯の生誕130年目に当たることから開かれ、沖繩平和祈念堂からは山田画伯作・日本画の「琉球王国時代那覇港の風景」や堆金製龍像他3点の作品を貸出展示した。

ぬちぬぐすーじさびらコンサート

in 摩文仁・プレコンサート

平成27年12月23日、恒久平和の祈りを世界に発信する「ぬちぬぐすーじさびらコンサート in 摩文仁・プレコンサート」(主催・沖繩協会、共催・沖繩県立芸術大学)が沖繩平和祈念堂で開催された。沖繩戦後、笑いで県民を元気づけた故小那覇舞天氏の言葉「ぬちぬぐすーじさびら(命のお祝いをしませう)」をタイトルに、平和の礎に刻銘されている人びとに安心して眠ってもらえるような、戦争のない平和な島に向けて努力していく決意を込めて開かれた。訪れた300人余の聴衆は、県立芸大オーケストラと沖繩レクイエム合唱団によるモーツァルト「レクイエム」など演奏の数々に魅了された。

沖繩平和祈念像の原型を制作した彫刻家・日本画家の山田真山画伯の生誕130年目に当たることから開かれ、沖繩平和祈念堂からは山田画伯作・日本画の「琉球王国時代那覇港の風景」や堆金製龍像他3点の作品を貸出展示した。

平成27年12月23日、恒久平和の祈りを世界に発信する「ぬちぬぐすーじさびらコンサート in 摩文仁・プレコンサート」(主催・沖繩協会、共催・沖繩県立芸術大学)が沖繩平和祈念堂で開催された。沖繩戦後、笑いで県民を元気づけた故小那覇舞天氏の言葉「ぬちぬぐすーじさびら(命のお祝いをしませう)」をタイトルに、平和の礎に刻銘されている人びとに安心して眠ってもらえるような、戦争のない平和な島に向けて努力していく決意を込めて開かれた。訪れた300人余の聴衆は、県立芸大オーケストラと沖繩レクイエム合唱団によるモーツァルト「レクイエム」など演奏の数々に魅了された。